Ｊリーグ新型コロナウイルス感染症対策総括

― 2020~2022シーズン ―

2022年12月13日（火）

公益社団日本プロサッカーリーグ

はじめに

NPB・Ｊリーグ新型コロナウイルス感染症対策連絡会議の終了にともない

2020シーズンからのコロナ禍の約３年間、「スポーツを通じて日本を元気に」という共通の願いのもと、日本野球機構（NPB）の皆さま、新型コロナウイルス対策連絡会議の専門家チーム・地域アドバイザー・科学アドバイザーの皆さま、スポーツ庁はじめとする関係省庁の皆さま方との連携を支えに、 Ｊリーグは３シーズンで3,373試合を開催してまいりました※。そして、ファン・サポーターの皆さま、選手・クラブの皆さま、メディアの皆さま、大会を支えるすべての方々とともに、その時々で必要な対策を講じ、互いを感染から守り合う習慣を身に着けながら、Ｊリーグの再開、有観客試合、そして応援の声の響く熱狂のスタジアムへと、一歩ずつ、取り戻したい「スポーツのある風景」を実現してまいりました。
3,373試合の一つ一つがＪリーグに関わる全ての方々とともに作り上げてきた「作品」であり、私たちは、約３年間のコロナ禍の連携で育んだ多くの知見を活かし、2023シーズン、そして次のステージに向け、さらに広く、スポーツを通した熱量を届けられるよう前進してまいります。
この場をお借りし、私たちの日常、そしてスポーツのある風景を共に育んでくださるすべての方々へ、心より御礼申し上げます。

※2020シーズンから2022シーズンに開催したＪリーグ公式試合（リーグ戦、リーグカップ戦、スーパーカップ、Ｊ１参入プレーオフ）の開催数の合計

感染症の専門家チームによる支援体制

感染症専門家による主な支援体制

①NPB・Ｊリーグ新型コロナウイルス感染症対策連絡会議

・メンバー：専門家チーム・地域アドバイザー・科学アドバイザー、NPB、Ｊリーグ
・期　　間：2020年3月3日～2022年11月28日
・回　　数：68回
・情報開示：会議後に合同記者会見開催
・常時150～200名超がオンライン参加（第1回は会議室開催）
競技団体・ライブエンタメ事業者・政府機関等陪席含む

②Ｊリーグ新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン監修、検査体制他各種対策への助言

・専門家チームからの提言(3/12、5/22の2回）に基づき
ガイドラインを策定（改定回数71回）、各種施策の企画・実施

③陽性者発生時の感染症対策の観点からの助言、積極的疫学調査、ゲノム解析の実施

・陽性者が同時期に複数名発生したチームの感染症対策の確認と
今後に向けた助言
・チーム内のクラスターのリンクを推定

④エントリー資格認定委員会の医事委員としての出席

・エントリー可否の判断（2021年まで。Ｊリーグが対象）

【敬称省略】

専門家チーム（2020年3月3日より）	
賀来 満夫	東北医科薬科大学医学部感染症学教室 特任教授 東北大学 名誉教授・客員教授、東京都 参与
三鴨 廣繁	愛知医科大学医学部　臨床感染症学講座 主任教授
舘田 一博	東邦大学 医学部 医学科 教授
地域アドバイザー（2020年3月9日より）	
髙橋 聡	札幌医科大学 医学部 感染制御・臨床検査医学講座 教授
遠藤 史郎＊	東北医科薬科大学病院感染制御部 部長
國島 広之	聖マリアンナ医科大学 感染症学講座 主任教授
掛屋 弘	大阪公立大学大学院 医学研究科 臨床医科学専攻 教授 医学部 医学科 教授
大毛 宏喜	広島大学病院 感染症科 教授
泉川 公一	長崎大学 副学長
科学アドバイザー（2020年10月より）	
井元 清哉	東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センターセンター長/教授
村上 道夫	大阪大学感染症総合教育研究拠点(CiDER)特任教授
加來 浩器	防衛医科大学校 防衛医学研究センター 教授

※専門家チーム・地域アドバイザー・科学アドバイザー各位に対し、Ｊリーグより、2020Ｊリーグアウォーズにてチェアマン特別賞を、2022Ｊリーグアウォーズにて功労賞を贈呈いたしました

Ｊリーグの新型コロナウイルス感染症対策方針

2020年のリーグ中断期に、再開にあたって3つの意思決定の方針を示し、コロナ対策を講じてきた

► 意思決定の3大方針

Jリーグの理念の1つ　豊かなスポーツ文化の振興及び国民の心身の健全な発達への寄与

1. 国民を守る
2. スポーツ文化を守る
3. お客さまの心身の安全を守りながら、楽しんでいただく

コロナ禍に突入する初期の段階で、判断の拠り所となる意思決定の優先順位を表明した。これは、有事下にあっても、組織として一貫して理念を追求しつづけ、Ｊリーグのある日常を回復させるために定めたものである。

総括のサマリー

健康を守りながら安全に再開する

- **リーグ安定開催の実現**

日程や大会方式を一部見直しながら、3シーズンで40都道府県で3,373試合を開催。
2021シーズン、2022シーズンは予定試合数100%を開催。（2020年も未開催試合は1試合にとどまる）

- **選手・スタッフによる感染拡大の抑制**

• Ｊクラブトップチーム選手・スタッフ全体の陽性者数は流行の波に沿ってシーズン合計件数は増えているが、国内全体の陽性者数における前年比の増加割合に照らし半分程度の増加傾向に抑えられていることから、一定程度、感染を制御しながら活動を継続

- **大会方式の見直し、ガイドラインによる共通ルールの設定**

• コロナ禍の不開催リスクを最小化するため昇降格の一次中止や交代枠増など大会方式、競技ルールを一部見直し、チーム活動、大会運営、来場者向けのガイドラインを整備。68回の対策連絡会議と、そこで得た知見に基づく計71回のガイドライン改定、都度の情報開　示を通じ、最新のコロナ対策を反映させながら開催

- **費用対効果を改善した検査体制**

• 費用対効果や利便性を改善しながら検査体制を最適化

お客様をお迎えし、スポーツ文化を守る

- **こだわった有観客試合**

• 再開後約2週間の無観客試合（リモートマッチ）を経て最短で有観客試合に移行。段階的な来場制限の緩和方針に基づきスタジアムからのクラスターの発生なく3シーズンで計16,673,419名が来場
• 2022シーズンの総入場者数比は2019シーズン比で73%まで回復。Ｊ１平均入場者数はコロナ禍で初めて10,000人を超えた

スポーツエンターテインメントとしての体験価値を高める

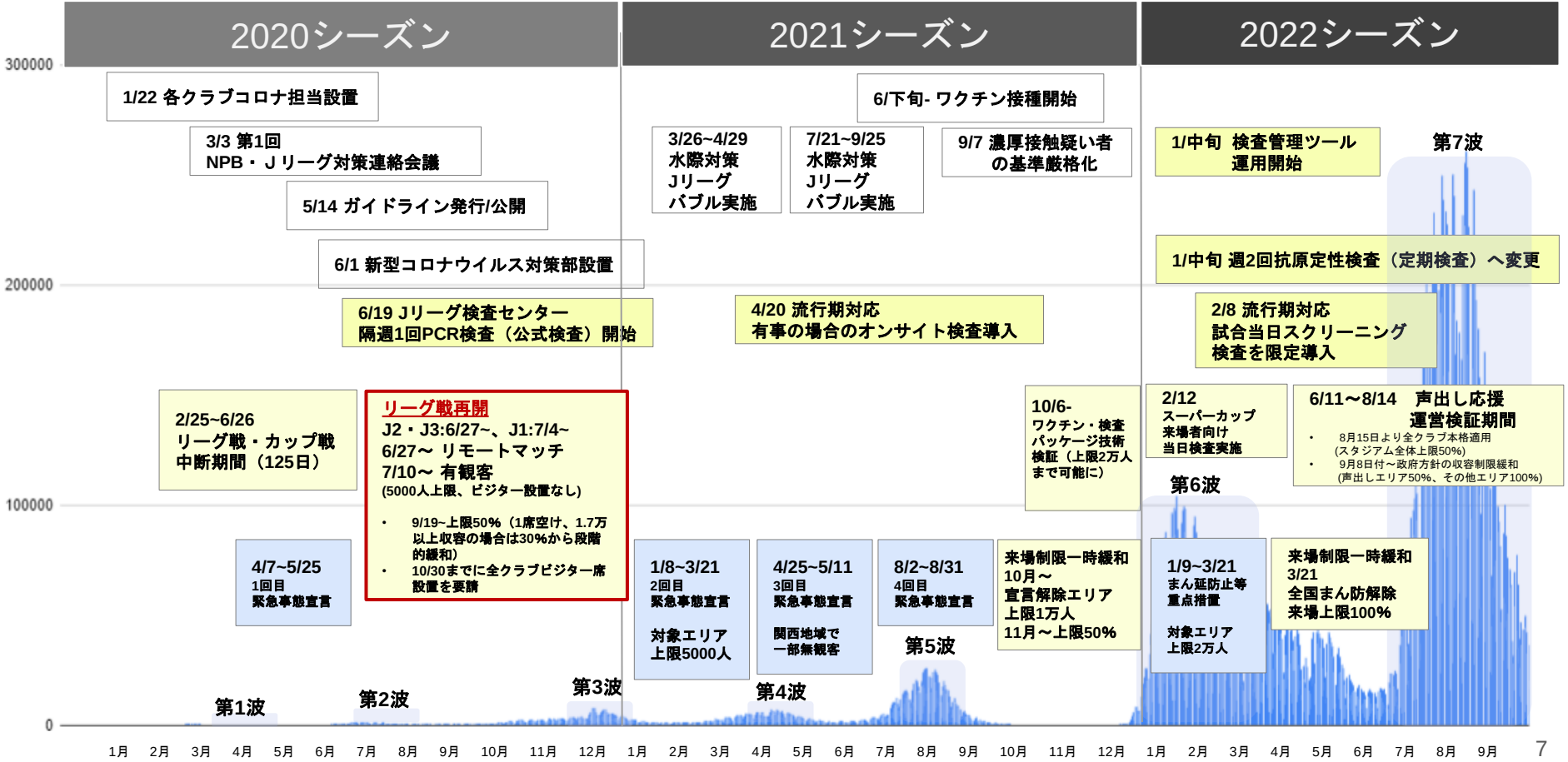
- **声出し応援の再開**

• 2022シーズン後半から積極的な科学的検証に基づく運営検証を経て段階的に声出し応援を再開。マスク着用や席間隔の対策が依然必要であるものの8割のクラブ（58クラブ中52クラブ）計246試合で声出し応援エリアが設けられた

重要指標の結果（陽性者数、試合数、入場者数）

シーズン		2020	2021	2022	20~22 計
陽性者数（人） ※トップチーム登録の選手・監督・スタッフ（Ｊ規約第47条①③該当者）	参考)　国内（厚労省発表）	235,907	1,497,520 (前年比 6.34倍)	22,064,759 (前年比　14.7倍)	23,798,186
	Ｊリーグ	65 (国内陽性者比　0.027%) (うち公式検査経由の陽性診断：10)	172 (国内陽性者比　0.014%) (前年比　2.64倍) (うち公式検査経由の陽性診断：41)	1,499 (国内陽性者比　0.006%) (前年比　8.7倍) (うち定期検査で陽性判定：392)	1,736
公式試合数（試合） ※Ｊ１・Ｊ２・Ｊ３リーグ戦 リーグカップ戦、スーパーカップ Ｊ１参入プレーオフが含まれる		開催試合数　1,103 無観客試合　61 有観客試合 1,042	開催試合数　1,122 無観客試合　25 有観客試合 1,097	開催試合数　1,148 無観客試合　0 有観客試合 1,148	3,373 無観客試合　86 有観客試合3,287
		中止試合数 17 (うち延期し開催 16、未開催 1) (うちコロナ事由 11、荒天 6)	中止試合数 19 (うち延期し開催19 、未開催 0) (うちコロナ事由17 、荒天 2)	中止試合数 36 (うち延期し開催 36、未開催 0) (うちコロナ事由 24、荒天 12)	コロナ事由による中止 52 うち延期なく未開催は2020年の1試合
入場者数（人）	総入場者数 (19年 11,043,003人) ※カッコ内は2019年比	3,614,044 （33%）	5,034,064 （46%）	8,025,311 （73%）	16,673,419 ※2020年2月のリーグ中断前の開催分を含む スタジアムクラスター報告件数　0件
	J1総入場者数 (19年 6,349,681人)	1,773,481	2,531,007	4,384,401	
	J1平均入場者数 (19年：20,751人)	5,796	6,661	14,328	
検査	実施件数 （自主検査除く）	44,613	68,225	239,976	
	手法	PCR検査	PCR検査	抗原定性検査	
	頻度	2週に1回	2週に1回 ＋オンサイト検査	週2回 ＋当日スクリーニング検査	
	費用	8.5億円	6.5億円	1.84億円(見込み)	

国内の感染状況と各シーズンの主なコロナ対策



グラフは厚労省発表の新規陽性者数の推移

国内の感染状況と各シーズンの主なコロナ対策

		2020シーズン	2021シーズン	2022シーズン
課題	国内	1/22国内感染者1名 2/8ダイヤモンドプリンセス号感染報道 3/3国内感染者数1000人を超える 4/7~5/25緊急事態宣言1回目（第1～2波） 11/30全世界からの外国人新規入国原則禁止	1/8 ~3/21 緊急事態宣言2回目（第3波） 4/25~5/11 緊急事態宣言3回目（第4波） 8/2~8/31緊急事態宣言4回目（第5波） 変異株の出現（デルタ株）	1月～オミクロン株の流行（第6波） 7月～ピーク時25万人の感染者数（第7波）
	Jリーグ	2/25~6/26公式試合の中断（125日間） チーム活動の停止 感染症対策全般の制度設計	感染拡大に伴う試合中止リスク増加 収容制限がある中での試合開催 1回目2回目ワクチン接種機会の確保	感染拡大に伴う試合中止リスク増加 収容制限がある中での試合開催 声援の無いスタジアム
主な 感染対策	【常時】クラブコロナ担当とリーグコロナ専門部署の連携、迅速な意思決定が実施可能なプロセスの見直し、チームコロナ管理支援、週2回の対策連絡会議、感染症専門家チーム・地域アドバイザーの支援体制、ガイドラインの改定と周知、政府・自治体等関連機関との連携、検査体制の運営　等			
	検査	6/19 2週に1回のPCR検査（Jリーグ公式検査）開始　※2021年12月末まで継続	4/20~ オンサイト検査の開始	1/1～ 週2回の抗原定性検査（定期検査）開始 1/1～ 検査管理ツールの導入 2/8～ 試合当日検査の開始
	ワクチン		6月下旬～　職域接種開始 7月～　大規模接種会場運営支援開始	1月～　3回目接種開始
	外国籍選手等 水際対策		3/26~4/29 Jリーグバブル1回目 7/21~9/25 Jリーグバブル2回目	
	スタジアム 来場対策		10/6～ ワクチン・検査パッケージの導入	2/12 スーパーカップで当日会場検査の実施 6/11～ 声出し応援運営検証の実施

シーズン別の主な課題と対策と成果

2020シーズン

「未知のウイルスへの対応、リーグ中断から再開への道筋をつくる」

【主な課題】新型コロナウイルス感染症発生、国内外での感染拡大、緊急事態宣言の発出による行動制限
公式試合の中断、チーム活動の中止、感染症対策全般の制度設計

【対策】
・感染症専門家による支援体制を構築し、ガイドラインを策定、公式検査を実施
・対策連絡会議の立ち上げ、会議後の会見の定時化による情報開示

【成果】
・2/25から125日間の中断期間を経て、6/27に公式試合を再開
・リモートマッチでの開催を経て、7/10より有観客で開催し、99.9%の試合開催※
・感染症対策の知見を世の中と共有

※YLCグループステージ順位決定後にコロナの影響で1試合が未開催

2021シーズン

「デルタ株の出現、3度の緊急事態宣言を乗り越える」

【主な課題】感染の更なる拡大、緊急事態宣言の発出による行動制限、変異株（デルタ株）の出現、新規入国の原則禁止
感染拡大に伴う試合中止リスク増加、収容制限がある中での試合開催、ワクチン接種機会の確保

【対策】
・公式検査の継続、試合日直近に陽性者等が発生の場合、試合当日に実施する「オンサイト検査」を導入
・ワクチン接種の情報提供・ワクチン職域接種サポート
・水際対策として、Ｊリーグバブルを実施
・ワクチン・検査(VT)パッケージの技術実証実施

【成果】
・1回目・2回目の接種率が73%前後
・新規入国となる選手/スタッフ受入が可能
・入場制限緩和に向けたオペレーションやデータの集積

シーズン別の主な課題と対策と成果

2022シーズン

「声の戻ったスタジアム」

【主な課題】感染力の高い変異株（オミクロン株）が出現、感染の更なる拡大
感染拡大に伴う試合中止リスク増加、収容制限がある中での試合開催
ウイルス変異と共に検査頻度を再検討する必要性、声援の無いスタジアム

【対策】・2週に1回のPCR検査から週2回の抗原定性検査へ変更。感染状況が悪化している時期は試合当日検査も実施
・3回目のワクチン接種推奨開始
・声出し応援運営検証により、コロナ禍での声出し応援のオペレーションやデータの集積

【成果】・全ての公式試合開催へつながった
・3回目接種率が7割近くに（シーズン後の接種予定者を含む）
・8/15より声出し応援の本格再開。運営実績から9/8に政府のイベント開催制限の一部緩和につながる

2023シーズンに向けて

- 本格的な正常化と流行期における開催リスクを両立させるメリハリのある対策
- 検査費用を中心としたさらなる費用対効果を実現するコロナ対策
- スタジアムの熱量を取り戻すための、声出し応援と満員のスタジアムの両立　　等

2020年 コロナ対策の初動

「2020 J.LEAGUE PUB Report 」にて掲載

https://jlib.j-league.or.jp/-site_media/media/content/65/1/html5.html#page=13

3年間の試合開催方針の変遷

	2020シーズン	2021シーズン	2022シーズン
全体方針	● Ｊリーグ存続のために、大会成立が最重要 ●不公平を受け入れ、1試合でも多く開催する	●試合開催基準の明確化 ●みなし開催の導入	●「実現可能性」「公平性」観点から 一部をアップデート
エントリー資格	公式検査で陰性　もしくは　エントリー資格認定委員会での承認		
	体温37.5度未満		
	濃厚接触者の認定、入国制限地域からの入国等により公的機関から自宅待機等の指示を受けている状態でない / 濃厚接触疑いに該当しない		
エントリー人数基準	基準人数（GK1名含む14名）を下回っても、試合開催に向けて最大限努力する ＊「第2種トップ可」及び「特別指定選手」は、U23チームを除いて、カウントに含めない	選手13名以上（GK1名含む）＊「第2種トップ可」及び「特別指定選手」はカウントに含める	
		チームスタッフの下限人数は無し（＝0人でも試合実施）	
チーム活動	自治体や保健所からの要請があった場合、チーム活動を停止する		
代替日設定	チェアマンが決定する	原則、1か月以内（目安）	原則、45日以内　＊インターナショナルウィーク（IW）がある場合、Ｊ１リーグは60日以内
		Ｊ１リーグもIWに開催可能	Ｊ１リーグはIWには開催不可
		基準を満たさない会場でも開催する	原則、基準を満たすスタジアムに限る
		最終節を超えて設定しない　＊インテグリティ観点から問題ない場合は設定可能	
		両チームが中2日以上	
	原則、中止になった順番だが、総合的に考慮	原則、中止になった順番	
成立条件みなし開催	延期開催が不可能な場合「未消化」	延期開催が不可能な場合「みなし開催」 ＊一方のチームの責に帰すべき事由により中止となった場合：その帰責性あるチームが０対３で敗戦 ＊双方のチームの責に帰すべき事由により中止となった場合：双方のチームが０対３で敗戦	
	大会成立条件： 試合数の75%以上かつ全クラブが50%以上実施		
その他	降格：なし		
	理念強化配分金：凍結		
	賞金：50%		

Jリーグ公式検査の開始

期間　2020年6月19日～2021年12月31日

課題　2020年2月25日より公式試合が中断。再開するためには感染者の早期発見が必須であった

目的 ・日々の予防行動を点検し、万が一罹患した場合に早期に隔離・療養措置を取るため

・クラブ内の陽性者（疑い者）をより迅速に把握し、クラブ内の感染拡大を防止する

・クラスター発生による試合中止やチーム活動の停止となるリスクを低減する

	2020シーズン	2021シーズン
検査概要	Jリーグが一括手配するスクリーニング検査	
検査手法	PCR検査（検体採取方法：唾液）	
検査対象	選手・チームスタッフ・クラブスタッフ・審判員・リーグ役員他	
1回あたりの検査件数	合計3,300件強（クラブ数×上限60人＋審判員他）	
総検査数	44,612件／計14回実施	68,225件／計21回実施
試合エントリーの関係	原則、公式検査で陰性判定⇒試合エントリー条件	

Jリーグオンサイト検査の開始

課題：2021年4月に第4波到来とともにチーム内感染者数が増え
試合中止リスク増
目的：安心安全な試合開催実現のため

期間　2021年4月20日～2021年12月31日

	内容
運用開始日	2021年4月20日～
検査概要	試合直前でチーム内に陽性者・コロナ疑い者が発生した場合などの検査
検査手法①	キックオフ3時間前⇒抗原定性検査（検体採取方法：鼻腔ぬぐい）
検査手法②	試合終了後⇒PCR検査
対象	試合エントリー選手・チームスタッフ25名程度
検査タイミング	キックオフ3時間前に実施⇒結果をリーグへ報告
試合エントリーとの関係	公式検査によるエントリー資格に加え、オンサイト検査で陰性の者が試合エントリー可能

抗原定性検査とPCR検査の一致率調査も合わせて実施

Jリーグオンサイト検査の一致率調査

オンサイト検査：抗原定性検査とPCR検査の一致率の検証

オンサイト検査結果	実施件数
陰性	2,141件
判定保留 ※検査結果として陽性、医師による診断前	1件
計	2,142件

一致率
99.9%

オンサイト検査後自主PCR検査結果	実施件数
陰性	2,139件
判定保留 ※検査結果として陽性、医師による診断前	3件
計	2,142件

この実施実績と国立研究開発法人産業技術総合研究所によるシミュレーション結果をふまえ、
2022シーズンの検査体制を、2週に1回のPCR検査から、1週間に2回の抗原定性検査へ変更することへつながった

PCR検査と抗原定性検査の検査戦略

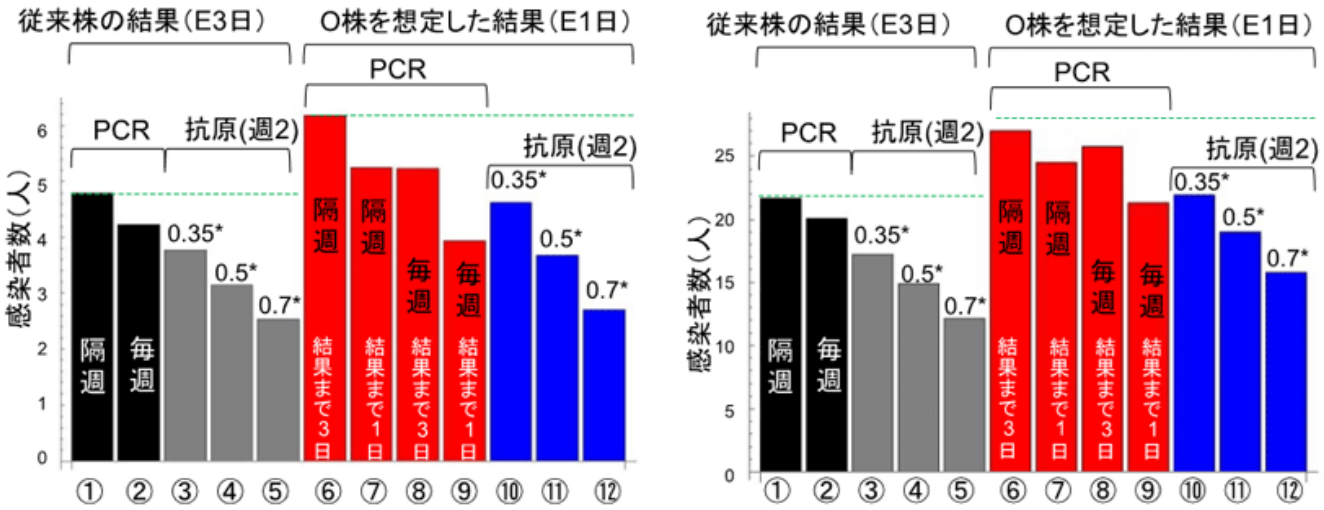


図3 定期検査方法ごとの感染者数（左）R0=2.5（右）R0=5.0

*抗原定性検査中の数字は対PCR検査比の感度

基本再生産数（RO）が2.5（左図）と5.0（右図）の場合、検査頻度による感染者数／週を算出した
2022シーズンの検査体制は、この仮説を元に週2回の抗原定性検査をリーグ全体で行うことになった

国立研究開発法人産業技術総合研究所

プロスポーツを対象とした選手・スタッフに対する新型コロナウイルスの検査戦略

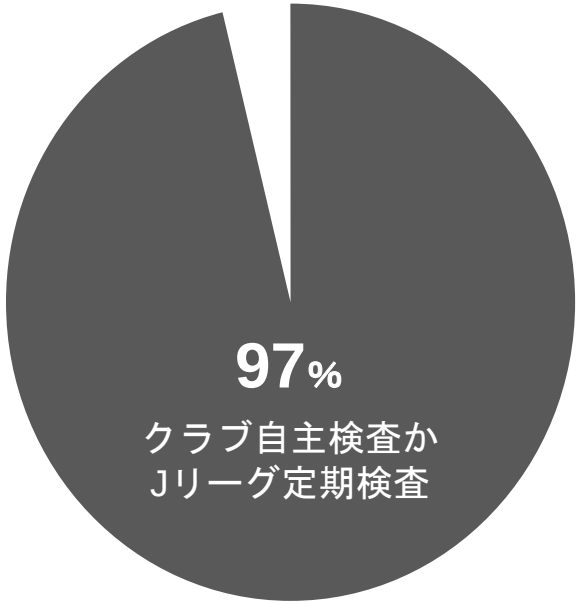
https://www.aist.go.jp/aist_j/new_research/2022/nr20220404/nr20220404.html

検査別の陽性者判明数

検査別の陽性判明数

期間　2022年1月1日～11月20日

検査種別	陽性者数
クラブ自主検査	**1,053**
Jリーグ定期検査	**392**
空港検疫検査	16
みなし陽性	4
試合当日検査	7
不明	27
合計	1,499



陽性者の97%がクラブ自主検査とJリーグ定期検査で判明している状況

抗原定性検査とPCR検査の感度分析

抗原定性検査の感度分析

期間　2022年1月12日～3月1日

検査日を0日とした場合の発症日	-2日	-1日	0日	+1日	+2日	無症状	合計
抗原定性検査陽性 PCR検査陽性	5	12	20	5	3	20	65
抗原定性検査陰性 PCR検査陽性	4	5	16	3	1	9	38
合計	9	17	36	8	4	29	103
抗原定性検査の感度	55.56%	70.59%	55.56%	62.50%	75.00%	68.97%	63.11%

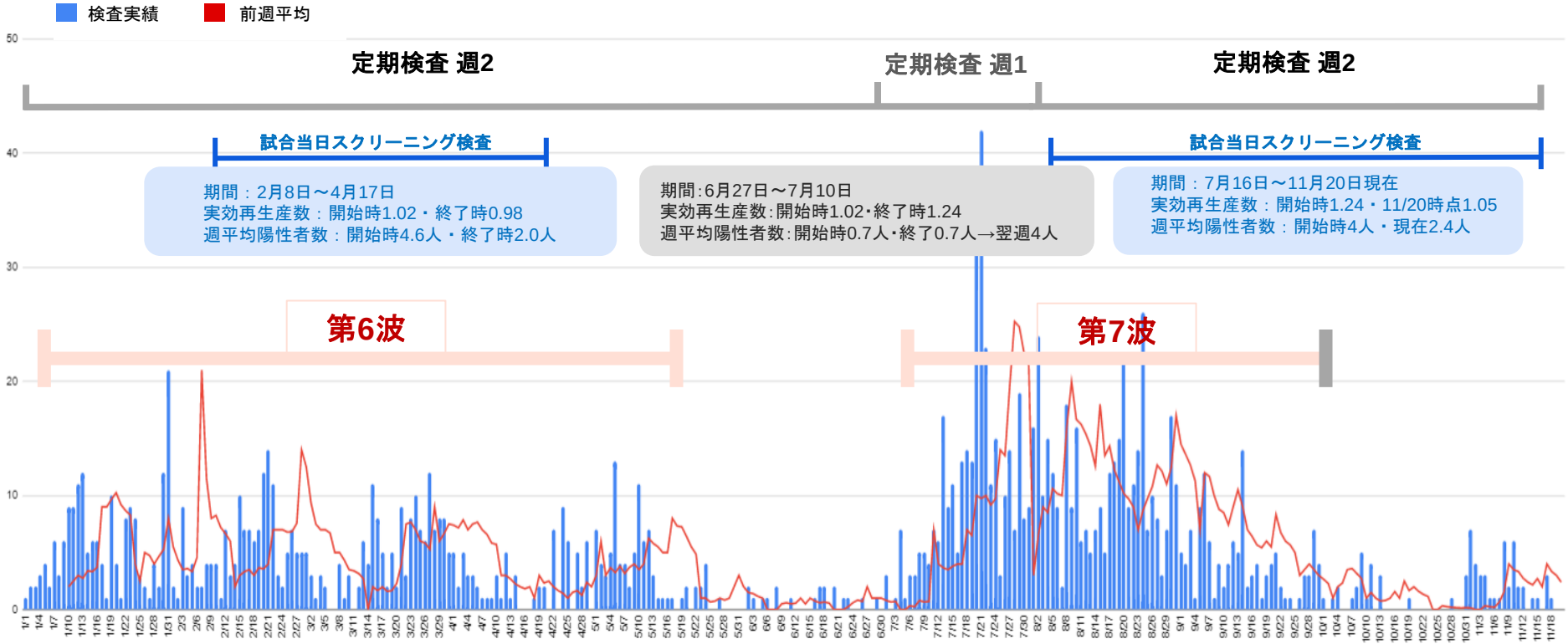
感度分析の結果は各クラブへ報告。抗原定性検査のメリットとデメリットを共有した

詳細はJリーグ公式ホームページ
https://www.jleague.jp/news/article/21967/

2022シーズン検査の実施状況

期間　2022年1月1日～11月20日

Ｊリーグ陽性者数の前週平均と当週実績推移



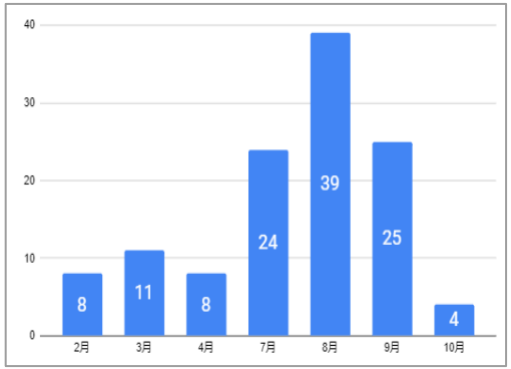
定期検査と試合当日スクリーニング検査の実績

定期検査と試合当日スクリーニング検査の実績

期間　2022年1月1日～11月20日

検査種別	検査回数	検査実施人数	1回当たりの検査人数	陽性者数
定期検査	87回	239,976人	2,758人	392人
試合当日スクリーニング検査	119回	3,624人	30人	7人
合計	192回	243,600人		368人

試合当日スクリーニング検査　発動回数の推移



・定期検査数は2021シーズン約4倍の実施件数（2週に1回⇒週2回）
・試合当日スクリーニング検査は、第6波～第7波到来時に実施回数増

週2回抗原定性検査による定期検査開始

期間　2022年1月1日～2022年11月20日

課題　2021年第4波・5波で感染力の高いデルタ株が出現。更なる新規感染者数増のリスクが発生した

目的　①クラブ内の陽性者（疑い者）をより迅速に把握し、クラブ内の感染拡大を防止する

②クラスター発生による試合中止やチーム活動の停止となるリスクを低減する

項　目	内　容
手法	抗原定性検査（キット提供）
期間	始動前（当日可）からシーズン終了まで
頻度・タイミング	週2回、各週の前半・後半で各1回（計2回）　前半：月～水、後半：木～日 ※検査頻度は中2日の間隔をあけることを推奨
対象	トップチーム選手・スタッフ他(チーム活動に関わる方)
キット配布数	1クラブあたり週2回×60キット
結果管理/検査責任者	クラブ
陽性判定時対応	クラブにて陽性者および濃厚接触者はチームから隔離
実施状況確認	Jリーグ

【2021】ワクチン・検査パッケージ技術検証

関連レポート　Ｊリーグ公式ホームページより
https://www.jleague.jp/news/article/21260/

■概要

- Ｊリーグの公式試合、計32試合でワクチン検査パッケージを実施。スポーツイベントとしては、10/6のルヴァンカップ準決勝@豊田スタジアムが初の実施
- 通常のイベント制限の上限人数に加えて、ワクチン・検査パッケージを活用して、各試合で約1,000名～10,000名の入場制限緩和を実施

■必要証明書

ワクチン接種証明書
（接種後14日間経過）
PCR検査陰性証明書
（検体採取3日以内）

【2021】ワクチン・検査パッケージ技術検証

個別実績							
対象試合	10/6（水） 19:00KO 豊田	10/16（土） 14:00KO ノエスタ	10/16（土） 19:00KO 日産	10/22（金） 19:00KO 埼玉	10/24（日） 15:00KO 豊田	10/24（日） 19:00KO 等々力	10/30（土） 13:00KO 埼玉
来場総数	7,778	11,301	11,502	11,172	19,257	11,576	17,993
うちVT来場数	641	1,775	811	1,127	8,062	1,676	8,756
ワクチン比率（ワクチン証明/VT全体）	99%	100%	98%	95%	99%	95%	96%
不備数	69	2	28	7	78	8	55
ブース対応時間(秒)/組	20-40	30-50	30-40	60-80	15-40	30-60	20-40
満足度 (0~5)	**4.23**	**4.25**	**4.23**	**4.15**	**3.86**	**3.79**	**4.10**
安心度(0~5)	4.26	4.15	4.40	4.22	3.92	3.98	4.18
他エリアと比べた観戦マナーポジティブ度	97.6%	98.3%	97.7%	98.9%	97.1%	96.9%	97.7%
後1週間以内の体調不良	0/ 330	0/ 435	1 / 145	0 / 210	2 / 2,435	0 / 398	2 / 1970

【2022】声出し応援運営検証

・声出し応援適用試合導入クラブは52クラブ（58クラブ中）

・声出し応援適用試合未導入の主な理由は声出し応援エリア内の収容制限（50%）

		収容条件		期間	対象試合数	声出し応援試合実施率	クラブ数
		声出しエリア内	声出しエリア外				
声出し応援運営検証期間	STEP 1	50% 配席：格子	50%	6月11日・6月12日	24試合中 2試合	8.3%	4クラブ
	STEP 2	50% 配席：市松模様	50%	7月2日・7月6日	45試合中 6試合	13.3%	12クラブ
	STEP 3	50% 配席：市松模様	50%	7月30日～8月14日	80試合中 20試合	25.0%	27クラブ
声出し応援適用試合①		50% 配席：市松模様	50%	8月15日～9月7日	87試合中 33試合	37.9%	20クラブ
声出し応援適用試合② ※9/8政府方針緩和		50% 配席：市松模様	100%	9月8日～11月20日	264試合中 185試合	70.1%	52クラブ

【2022】声出し応援運営検証

声出し応援再開を目的とし、感染対策の観点より感染症の専門家チームの助言に基づきガイドライン（※1）を作成。1会場で声出しエリアを分割する運用が可能かどうか、ガイドラインの遵守状況とともに運営検証を実施。検証結果を政府等に報告。声出し応援エリアの併存運営を前提としたエリア外の収容制限のルール緩和につながった。

詳細は2022年8月1日付報告（https://www.jleague.jp/news/article/22946/）

▼検証項目

「声出し応援エリア」と「声出し応援禁止エリア」の併存運営

(1)声出し応援エリアと声出し応援禁止エリアの明確な区分

(2)声出し応援エリアにおける応援ガイドライン（※2）の適切な運用

(3)声出し応援禁止エリアにおける声出し防止

※1Jリーグ　新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン、声出し応援に関するガイドライン
※2不織布マスク着用、距離の確保、一方向を向いた応援、肩組み・ハイタッチ・飲食の禁止(※水分補給は可、STEP3より発声がない時間帯の食事可）等

参考資料

2020シーズン、2021シーズンの各コロナ対策総括は「J.LEAGUE PUB Report 」にも掲載しています
https://jlib.j-league.or.jp/#/home?vtype=&ctype=all&sort=setting&page=1&tags=6&order=desc

※ 2022シーズン版は2022年12月下旬に発行予定